

## 2016年4月以降に本院眼科を受診された

### 小児患者さんおよび保護者の方へ

#### 【研究課題名】

光干渉断層計を用いた後眼部形状解析

#### 【研究の対象】

2016年4月以降に、本院眼科にて光干渉断層計検査を受けられた15歳以下の小児患者さん

#### 【研究の目的・方法について】

目的：屈折異常には近視、遠視、乱視があり、網膜上にピントが合わないので眼鏡を装着してピントを合わせます。遠視は眼軸長（がんじくちょう：目の奥行き長さ）が短いことが知られていますが、近年では、目の奥にある視神経乳頭（ししんけいにゅうとう：視神経の入り口）や、眼球の壁を構成する脈絡膜（みやくらくまく）の厚みも正常眼と異なることがわかってきています。今回、光干渉断層計という器械で撮影した目の奥の画像や、眼科検査データ（遠視度数、眼軸長、角膜の厚み・カーブなど）を振り返って遠視患者さんの後眼部形状（目の奥の形態）の解析を行います。正常眼との形態を比較し、経年的な変化の傾向がわかれば、将来的に診断や治療に役立ちます。

方法：日常診療で撮影した光干渉断層計データ、屈折値、眼軸長などをパソコンで解析します。

【研究期間】2021年6月21日～ 2026年6月30日

#### 【使用させていただく情報について】

対象患者さんの光干渉断層計データ、眼科検査データ（屈折値、角膜曲率、眼軸長、視力、年齢など）を収集させていただきます。なお、本研究は大分大学医学部倫理委員会において外部委員も交えて厳正に審査・承認され、大分大学医学部長の許可を得て実施しています。また、患者さんの情報は、国の定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、匿名化したうえで管理しますので、患者さんのプライバシーは厳密に守られます。当然のことながら、個人情報保護法などの法律を遵守いたします。

**【使用させていただく情報の保存等について】**

保存方法：大分大学医学部附属病院電子カルテ内および同院眼科医局パソコン内にパスワードを設定して保存します。紙資料は同医局の鍵のかかる保管庫にて保管します。

期 間：論文発表後 10 年間

廃棄方法：電子データは復元できないよう完全に削除します。紙資料はシュレッダーで廃棄します。ただし、研究の進展によってさらなる研究の必要性が生じた場合は上記の保存期間を超えて保存させていただきます。

**【外部への情報の提供】**

本研究で収集した情報を他の機関へ提供することはありません。

**【患者さんの負担等について】**

本研究は過去のカルテから得られるデータのみを用いるため、研究対象となる患者さんへ新たな負担が生じることはありません。また、患者さんによる費用負担が生じることもありません。

**【研究資金】**

本研究においては、公的な資金である大分大学医学部眼科学講座の寄付金 - 久保田研究助成 - 学術研究助成を用いて研究を行います。

**【利益相反について】**

本研究は上記の公的な資金を用いて行われ、特定の企業からの資金は一切使いません。

「利益相反」とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人を含みますが、本研究ではこの「利益相反」は発生しません。

**【研究の参加等について】**

この研究へ情報を提供するかどうかはあなたの自由です。また、本研究に患者さんの情報を使用して欲しくない時はいつでも拒否することができます。拒否されても、研究対象者等が不利益な取り扱いを受けることはなく、当院では同じように最善の医療を提供いたします。ただし、拒否を表明された時すでに研究結果が論文などで公表されている場合のように、研究結果からあなたを外すことが出来ない場合があります。

患者さんの情報を使用して欲しくない場合、その他、本研究に関して質問などがありましたら主治医または**【お問い合わせについて】**の連絡先までお申し出ください。

**【研究組織】**

研究責任者：大分大学医学部附属病院眼科 助教 大木玲子

研究分担者：大分大学医学部眼科学講座 教授 久保田敏昭

大分大学医学部附属病院眼科 助教 中野聡子

【お問い合わせについて】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住 所：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1

電 話：097-586-5904

担当者：大分大学医学部眼科学講座 大木玲子（おおきりょうこ）